

西國
秩又
坂東

百番御詠歌
全

大字平假名新編

L 186

廿

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

西國三下三番札所迄の札の受金

〇くさ 二のゆいひたつちわにそのいん
 一 各一ス代のとめと教さんぬんぬん心さのふき
 〇をたまひぬととれし入受~~は~~せうとせりや
 〇をあつちのふき~~は~~をのえんぬじさうのぬつけ有
 て三月十七日よりみち山とちあつちぬ六月朔日
 まをにみのつにれたあつちまをちあつちあつち
 まふかふり

〇くさ 二のゆいひたつちわにそのいん
 一 各一ス代のとめと教さんぬんぬん心さのふき
 〇をたまひぬととれし入受~~は~~せうとせりや
 〇をあつちのふき~~は~~をのえんぬじさうのぬつけ有
 て三月十七日よりみち山とちあつちぬ六月朔日
 まをにみのつにれたあつちまをちあつちあつち
 まふかふり

〇このちく帳せの十々条

一 一あつちのゆいひたつちわにそのいん
 〇をたまひぬととれし入受~~は~~せうとせりや
 〇をあつちのふき~~は~~をのえんぬじさうのぬつけ有
 て三月十七日よりみち山とちあつちぬ六月朔日
 まをにみのつにれたあつちまをちあつちあつち
 まふかふり

〇このちく帳せの十々条
 〇をたまひぬととれし入受~~は~~せうとせりや
 〇をあつちのふき~~は~~をのえんぬじさうのぬつけ有
 て三月十七日よりみち山とちあつちぬ六月朔日
 まをにみのつにれたあつちまをちあつちあつち
 まふかふり

大南にゆいひたつちわにそのいん

三十三まの
よこのまの

奉納西國三上所
年月日 名

南無觀世音菩薩



西國三上所
同行何人
西國三上所
同行何人

西國三上所
奉号月日同行何人
西國三上所

○おいゆり仕立
あしびにまの
あしびにまの



たれ
あま
いそ

一番まの山

あま
いそ
たれ

あまのまの
あまのまの
あまのまの



十一
いそ
あま
たれ

一番まの山

あま
いそ
たれ

あまのまの
あまのまの
あまのまの



まよひ
まよひ
まよひ
まよひ

三番まよひの寺

まよひ
まよひ
まよひ
まよひ

ちちれがまよひの寺
まよひのちちれがまよひ



まよひ
まよひ
まよひ
まよひ

三番まよひの寺

まよひ
まよひ
まよひ
まよひ

まよひのちちれがまよひ
まよひのちちれがまよひ



まよひ
まよひ
まよひ
まよひ

三番まよひの寺

まよひ
まよひ
まよひ
まよひ

まよひのちちれがまよひ
まよひのちちれがまよひ



まよひ
まよひ
まよひ
まよひ

三番まよひの寺

まよひ
まよひ
まよひ
まよひ

まよひのちちれがまよひ
まよひのちちれがまよひ



大阿羅漢
大阿羅漢

七番海山勢

三十一
七番海山勢

七番海山勢
七番海山勢



二
六尺
十

七番海山勢

七
七

七番海山勢
七番海山勢



十
他
天

七番海山勢

十
七

七番海山勢
七番海山勢



十
上
作

七番海山勢

十
三
大

七番海山勢
七番海山勢

聖人



三ヶい
い
聖作

土番のふたぎ

うら
らん
か
十丁

まかき免もきさむせうふきま
あめんせいせうふたぎのしき



子
大
天
ち
本
か
えん

土番のふたぎ

うら
らん
か
十丁

みまふくろくあかんひのふたぎ
きりんなみまふくろくせのふたぎ



正
長
ちん
ちん
太
お
お

土番のふたぎ

うら
らん
か
十丁

のち乃くはれはふくらあかんひ
かたけのちんちんちんちん



正
長
ちん
ちん
太
お
お

土番のふたぎ

うら
らん
か
十丁

うららんちんちんちんちん
うららんちんちんちんちん

五



十
五
八

十善業の果
三十三

ひじょうなつとまをちぬまらぬ
やとけのちるぬあしきあり



十
五
八

十善業の果
八丁

まをせやちのいなきまらぬ
まがらちるぬあしきあり



十
五
八

十善業の果
十丁

おのくを走しついのいなきまらぬ
ちくちるぬあしきあり



十
五
八

十善業の果
十分

つねにまらぬのちるぬあしきあり
たまらぬのちるぬあしきあり



あまの
あまの
あまの

十九番 雲のうらみ

あまのうらみ
あまのうらみ
あまのうらみ
あまのうらみ
あまのうらみ



あまの
あまの
あまの

廿番 雲のうらみ

あまの
あまの
あまの

あまのうらみ
あまのうらみ
あまのうらみ
あまのうらみ
あまのうらみ



あまの
あまの
あまの

廿一番 雲のうらみ

あまの
あまの
あまの

あまのうらみ
あまのうらみ
あまのうらみ
あまのうらみ
あまのうらみ



あまの
あまの
あまの

廿二番 雲のうらみ

あまの
あまの
あまの

あまのうらみ
あまのうらみ
あまのうらみ
あまのうらみ
あまのうらみ



ほり
さく

北番は念のま

中山八
ニリ
十丁

れんごもはふりのいりちん
かつけをたぬむとせやれ



古
日

北番は中寺

ちんま
り
り

のれんごはちんまのいりちん
ちんまのいりちん



田
さく

北番は念のま

ハ
リ

あはれはあまのいりちん
あはれはあまのいりちん



あ
さく

北番は念のま

ちん
ま

ちんまのいりちん
ちんまのいりちん



かまふん
がまふん
うらま

七番大菩薩

あふ
あふ
九七

ちんくとのむれがふしちの山あり
まうのひびくたもみのりなるん



かまふん
あふん
上人

七番大菩薩

あふ
あふ
十三

かまの地と松のむれもまうあのみ
かまのむれもまうあのみ



あふん
あふん
上人

七番大菩薩

あふ
あふ
十九

そのむれいふよあふらたうとん
らとせとらぬまうのおのて



あふん
あふん
上人

七番大菩薩

あふ
あふ
十六

月長目あふれあふらたうとん
あふれあふらたうとん



十文
金
三

世番の金銀

金
三
三

わらをせやあだにまいたのちでら
たまふのちまふとて一あうん



十文
大子

世番の金銀

十文
十九り

あかたうとまらひたのちをせや
と成さくらふよりまらふのちと



十文
のち

世番の金銀

十文
十九り

いあてはあやたのちたのちと
と成くおこむのちまらふ

南無木大いふをせやあまのちまらふ
おのちのちまらふとて一あうん

ふてうのちまらふ

まらふのちまらふとて一あうん
まらふのちまらふとて一あうん

練父三十四番札所

江ノ左の娘(おん)に女のみたう三まが有(川)と通
き(と)き(と)のあれの(舞)あり(み)く(つ)て(ま)い(て)ま
せん(わ)く(と)ど(ち)に(た)ふ(ま)は(川)と(ま)す(す)お(い)
ま(ま)は(舞)ふ(い)い(い)と(い)と(合)年(堂)と(丁)六(十四)間
日本橋(が)い(と)り(遊)堂(い)と(り)り(舞)り(ま)す(ま)
舞(り)ま(る)あ(る)え(ん)と(り)ま(る)こ(ひ)ど(り)ま(る)り(ひ)と(り)り
大(と)と(り)り(大)い(ぬ)ま(り)り(川)と(り)り(後)三(三)
明(後)と(り)り(三)り(す)あ(る)り(三)り(ま)り(り)り(ま)り(り)り(三)り



いんげん
かん
りぎ

一番志まぶでり

大(と)り
三(三)丁
三(三)間

あ(り)ご(と)り(お)ひ(と)ま(れ)き(ら)ぬ(の)れ(た)
か(ま)ご(り)ま(ぶ)の(て)り(り)り(り)り(り)



いんげん
かん
りぎ

一番志まぶでり

いんげん
大(大)丁
大(大)に(に)り

あ(り)ご(と)り(お)ひ(と)ま(れ)き(ら)ぬ(の)れ(た)
か(ま)ご(り)ま(ぶ)の(て)り(り)り(り)り(り)



右 日

三番とては

あし
きん
十三

あつたうあまのつてあむむをんせ
にせあいらくとたはもりのらん



十一
ク
ん

三番とては

ろく
十二
十六

あつたうあまのつてあむむをんせ
にせあいらくとたはもりのらん



十一
ク
ん

三番とては

ろく
十二
十六

あつたうあまのつてあむむをんせ
にせあいらくとたはもりのらん



十一
ク
ん

三番とては

ろく
十二
十六

あつたうあまのつてあむむをんせ
にせあいらくとたはもりのらん



十一
め
右日

七番じぶまはじ

七
十
人

六とうとう縁くちがうとあむむし
まこのちのふなまきもりぞし



十一
めん
あか

八番よのせえ

あ
く
し
一
十

たごぬのやまよふみかたひさかた
まうろうむえんこもあふえん



十一
めん
あか

九番のけちでら

あ
く
し
一
十

ちがうとあむむし
あうの月からからあかん



十一
めん
あか

十番だのせでら

あ
く
し
一
十

ひさよとあむむし
む川のちのふなまきもりぞし



十一
めん
ゆぎ

土番言を事し

のさう
ぢん
十丁よ

つぎぎをきくまのつらつらと
あまひのつらとせつひひひく



十二
めん
おん
たふ

土番のさうでら

まけ
ちん
九丁よ

おひふふふふふふふふふ
おひふふふふふふふふふ



十三
めん
おん
ゆぎ

土番はれ遠

りん
まへ
四丁よ

みでふふふふふふふふふ
うれふふふふふふふふふ



十四
めん
おん
ゆぎ

土番言を事し

ちん
くちん
六丁よ

むらむらなともふふふふふ
ものつらつらつらつらつら



十番 せんぱん
けん

十番ぞうぬじ

せんぱん
けん

みどりあまのりのおのぞうに
ちのりぞえにちひのりま



十番 せんぱん
たけ

十番まのりじ

せんぱん
たけ

さかどりちひとひとふたつね
つひのまこくへとてまけ



十番 せんぱん
たけ

十七番とやち

せんぱん
たけ

わんぼとあひさしおと年ち
ふまこあまのちとあま



十番 せんぱん
あま

十番りとぞら

せんぱん
あま

たてあまのりまのりなひと
うまのりあてなまけなま



あまの
やみ

十五番やうせき

あまの
やみ
十六
丁

わちつらやうごまはむいのつらむせ
まらるゝ人のつらむせやうあるべし



あまの
やみ
十六
丁

廿番いこのう

あまの
やみ
十六
丁

こけむいろうきまてもまらるゝい
たぬのうそまのちまらるゝい



あまの
やみ
十六
丁

廿番いこのう

あまの
やみ
十六
丁

わちつらやうごまはむいのつらむせ
まらるゝ人のつらむせやうあるべし



あまの
やみ
十六
丁

廿番いこのう

あまの
やみ
十六
丁

わちつらやうごまはむいのつらむせ
まらるゝ人のつらむせやうあるべし



おん
かん
ん

廿番おぼろぎ

おん
かん
ん

おんごのこまやうなるおんさうの
まゝにのこまやうのまゝを



おん
かん
ん

廿番おぼろぎ

おん
かん
ん

おまてはれおのこまやうのまゝを
おまてはれおのこまやうのまゝを



おん
かん
ん

廿番おぼろぎ

おん
かん
ん

おまてはれおのこまやうのまゝを
おまてはれおのこまやうのまゝを



おん
かん
ん

廿番おぼろぎ

おん
かん
ん

おまてはれおのこまやうのまゝを
おまてはれおのこまやうのまゝを



おん
ん
ん
ん

花番のり

ん
ん
ん

あつちあけまらるゝのつるま
あつちあけまらるゝのつるま



は
ん
ん

花番はーだて

ん
ん
ん

あつちあけまらるゝのつるま
あつちあけまらるゝのつるま



は
ん
ん

花番はーだて

ん
ん
ん

あつちあけまらるゝのつるま
あつちあけまらるゝのつるま



は
ん
ん

花番はーだて

ん
ん
ん

あつちあけまらるゝのつるま
あつちあけまらるゝのつるま



おんぜん
おん
おん
おん
おん

北番此のひも

おん
おん
おん
おん

あまがらさくえんくけりてげんせむらう
りこのひもにむむくたまるて



おん

北番此のひも

おん
おん
おん
おん

あまがらさくえんくけりてげんせむらう
りこのひもにむむくたまるて



おん

北番此のひも

おん
おん
おん
おん

あまがらさくえんくけりてげんせむらう
りこのひもにむむくたまるて



おん

北番此のひも

おん
おん
おん
おん

あまがらさくえんくけりてげんせむらう
りこのひもにむむくたまるて

坂東三十三番札所

ちび三十(四)でいれうちまきいゆうなるかゆん(五)に
 主運(六)り。志をあらう(七)しり(八)ち(九)下(十)三(十一)丁。志(十二)むか(十三)へ
 一(十四)北(十五)丁。お(十六)る(十七)後(十八)世(十九)之(二十)世(二十一)丁。後(二十二)世(二十三)之(二十四)世(二十五)井(二十六)三(二十七)十六(二十八)丁。志(二十九)平(三十)井(三十一)三(三十二)十六(三十三)丁。志(三十四)平(三十五)井(三十六)三(三十七)十六(三十八)丁。志(三十九)平(四十)井(四十一)三(四十二)十六(四十三)丁。志(四十四)平(四十五)井(四十六)三(四十七)十六(四十八)丁。志(四十九)平(五十)井(五十一)三(五十二)十六(五十三)丁。志(五十四)平(五十五)井(五十六)三(五十七)十六(五十八)丁。志(五十九)平(六十)井(六十一)三(六十二)十六(六十三)丁。志(六十四)平(六十五)井(六十六)三(六十七)十六(六十八)丁。志(六十九)平(七十)井(七十一)三(七十二)十六(七十三)丁。志(七十四)平(七十五)井(七十六)三(七十七)十六(七十八)丁。志(七十九)平(八十)井(八十一)三(八十二)十六(八十三)丁。志(八十四)平(八十五)井(八十六)三(八十七)十六(八十八)丁。志(八十九)平(九十)井(九十一)三(九十二)十六(九十三)丁。志(九十四)平(九十五)井(九十六)三(九十七)十六(九十八)丁。志(九十九)平(百)井(百一)三(百二)十六(百三)丁。志(百四)平(百五)井(百六)三(百七)十六(百八)丁。志(百九)平(百十)井(百十一)三(百十二)十六(百十三)丁。志(百四十四)平(百四十五)井(百四十六)三(百四十七)十六(百四十八)丁。志(百四十九)平(百五十)井(百五十一)三(百五十二)十六(百五十三)丁。志(百五十四)平(百五十五)井(百五十六)三(百五十七)十六(百五十八)丁。志(百五十九)平(百六十)井(百六十一)三(百六十二)十六(百六十三)丁。志(百六十四)平(百六十五)井(百六十六)三(百六十七)十六(百六十八)丁。志(百六十九)平(百七十)井(百七十一)三(百七十二)十六(百七十三)丁。志(百七十四)平(百七十五)井(百七十六)三(百七十七)十六(百七十八)丁。志(百七十九)平(百八十)井(百八十一)三(百八十二)十六(百八十三)丁。志(百八十四)平(百八十五)井(百八十六)三(百八十七)十六(百八十八)丁。志(百八十九)平(百九十)井(百九十一)三(百九十二)十六(百九十三)丁。志(百九十四)平(百九十五)井(百九十六)三(百九十七)十六(百九十八)丁。志(百九十九)平(百十)井(百十一)三(百十二)十六(百十三)丁。志(百四十四)平(百四十五)井(百四十六)三(百四十七)十六(百四十八)丁。志(百四十九)平(百五十)井(百五十一)三(百五十二)十六(百五十三)丁。志(百五十四)平(百五十五)井(百五十六)三(百五十七)十六(百五十八)丁。志(百五十九)平(百六十)井(百六十一)三(百六十二)十六(百六十三)丁。志(百六十四)平(百六十五)井(百六十六)三(百六十七)十六(百六十八)丁。志(百六十九)平(百七十)井(百七十一)三(百七十二)十六(百七十三)丁。志(百七十四)平(百七十五)井(百七十六)三(百七十七)十六(百七十八)丁。志(百七十九)平(百八十)井(百八十一)三(百八十二)十六(百八十三)丁。志(百八十四)平(百八十五)井(百八十六)三(百八十七)十六(百八十八)丁。志(百八十九)平(百九十)井(百九十一)三(百九十二)十六(百九十三)丁。志(百九十四)平(百九十五)井(百九十六)三(百九十七)十六(百九十八)丁。志(百九十九)平(百十)井(百十一)三(百十二)十六(百十三)丁。



あまのつむぎの作

一番のまゝに

十丁

なもこのちがなりうすたそこの
 ちひなまのいふもくうくじ



つむぎの作

一番のまゝに

十丁

ちあうりてあまのいふをわひた
 けとけとあまのいふをわひた



千本
の作

三番留をたけり

三十一
六丁

かまきよもそ花うかふるはじろち
よとのぶらかのわをひきうた



十一
の作

雲霞をそを

三十一
の作

とせでらふまのてたをまむん
わかめをたおたりいぢらた



十一
の作

雲霞をそを

三十一
の作

かまきよもそ花うかふるはじろち
よとのぶらかのわをひきうた



十一
の作

雲霞をそを

三十一
の作

いぢまぞうこちをあやうつせ
りりあひびぐまゝ色のねと



三十一
三十一

七番おんまはるまはるま

三十一
三十一

あまのまはるまはるまはるま
にせのまはるまはるまはるま



三十一
三十一

八番おんまはるまはるま

三十一
三十一



三十一
三十一

九番おんまはるまはるま

三十一
三十一

まはるまはるまはるまはるま
ちりまはるまはるまはるま



三十一
三十一

十番おんまはるまはるま

三十一
三十一

のちのまはるまはるまはるま
のちのまはるまはるまはるま



あまの
えん
ふん

土著道まねは

あまの
えん
ふん

ふみよのまのらむはひの地
大ドちのちひのちひ



あまの
えん
ふん

土著道まねは

あまの
えん
ふん

あまのまのらむはひの地
大ドちのちひのちひ



あまの
えん
ふん

土著道まねは

あまの
えん
ふん

あまのまのらむはひの地
大ドちのちひのちひ



あまの
えん
ふん

土著道まねは

あまの
えん
ふん

あまのまのらむはひの地
大ドちのちひのちひ



十めん
ゆぎ

十番のついで

三
二

なまをまねりてさうさうさうの
まらせぬらひてのりてのりか



せん
むん
ふら

十番のついで

三
二

なまをまねりてさうさうさうの
まらせぬらひてのりてのりか



まよ
ゆ
ゆき

十番のついで

三
二

なまをまねりてさうさうさうの
まらせぬらひてのりてのりか



右
日

十番のついで

三
二

なまをまねりてさうさうさうの
まらせぬらひてのりてのりか



あゆ
ごう
がう

十六番よりけり

ちん
ごう
はう
じ

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに



めん
ごん
めい

十六番よりけり

あま
ごん
めい



は
り

十六番よりけり

は
り

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに



ごん
ごん
ごん

十六番よりけり

ごん
ごん
ごん

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに



廿八
太子

世番の心

廿八

とあぐとのぢりえおびじりうぢら
りももええせぬまうせのせ



十めん
いも
かま

世番の心

廿八

ひまろあぢりうぢりうぢりうぢり
ぢりうぢりうぢりうぢりうぢり



廿八
いも
かま

世番の心

廿八

とあぐとのぢりうぢりうぢりうぢり
ぢりうぢりうぢりうぢりうぢり



廿八
いも
かま

世番の心

廿八

とあぐとのぢりうぢりうぢりうぢり
ぢりうぢりうぢりうぢりうぢり

とあぐとのぢりうぢりうぢりうぢり
ぢりうぢりうぢりうぢりうぢり



十一
あん
は

本番あまのま
あまのま
あまのま

あまのまあまのまあまのまあまのま
あまのまあまのまあまのまあまのま



十一
あま
は

本番あまのま
あまのま
あまのま

あまのまあまのまあまのまあまのま
あまのまあまのまあまのまあまのま



十一
あま
は

本番あまのま
あまのま
あまのま

あまのま
あまのま
あまのま

あまのまあまのまあまのまあまのま
あまのまあまのまあまのまあまのま



十一
あま
は

本番あまのま
あまのま
あまのま

あまのま
あまのま
あまのま

あまのまあまのまあまのまあまのま
あまのまあまのまあまのまあまのま



長ちがひ

此番のついで

廿年に

ひくろくあはるのちちせう
くろたひとたのむかひのり



かくまじ

此番のついで

廿年に

ひくろくあはるのちちせう
くろたひとたのむかひのり



めさせん

此番のついで

廿年に

あはるのちちせう
くろたひとたのむかひのり
あはるのちちせう
くろたひとたのむかひのり
あはるのちちせう
くろたひとたのむかひのり
あはるのちちせう
くろたひとたのむかひのり

